

<感想1：大阪大学法学部3年生>

10月26日に関西大学梅田キャンパスで行われたロースクールの宣伝イベントへ行きました。

「ロースクールへ行こう!!」とは、毎年全国各地で開催されているロースクール説明会&懇談会のことです。ロースクールでの日々の生活、司法試験についての説明や、現役の裁判官・検察官・弁護士の方から日々の業務やロースクール時代の話などさまざまなお話を聞くことができるイベントです。

私が先日訪れた際は、最初に弁護士の方からロースクールの魅力について講演を聞き、その後、裁判官・検察官・弁護士の方お一人ずつと同じテーブルを囲んでお話を伺うことができました。

印象に残ったのは、ロースクールでの生活と、裁判官の方のお仕事についてのお話の2つです。

まず、ロースクールでの生活について。

ロースクールというと、司法試験の受験資格を得るための2年間であり、朝から晩まで365日勉強！というイメージが強いです。

しかし、今年度の司法試験の合格者の方や法曹の方は皆口をそろえて「ロースクール時代は楽しかった」とおっしゃっていました。ロースクール時代は第2の青春だ、とおっしゃっている弁護士の方もいました。同じ道を目指している仲間と一緒に勉強をしたり、議論をしたり…現在その仲間と会ってもロースクール時代の思い出話に花を咲かせるそうです。それぐらい密で充実した時間を過ごすことができるそうで、今でも同じ道で仕事をしている者同士、たまに会ったり交流があるそうです。

次に、裁判官の方のお仕事のお話について。

裁判官の方は「裁判官をしていてやり甲斐を感じるのはどんなときですか？」という質問に対して「誰かがやらないといけない仕事っていうのはあると思うんですね。法曹っていうのはどれもそういう仕事だと思うんです。例えば裁判官なら、書面を読んだり当事者の主張を聞いて決定する。そういう誰かがやらなければならない仕事を行っているっていうことをやり甲斐に感じるがありますね」とおっしゃっていました。

ただ法律を使って判決を出していく仕事、ではなく社会貢献という面から仕事を捉えていて、素敵なお仕事だな、と感じました。

これまで私は、裁判官など法曹という仕事に対して何だかよくわからないけどすごい仕事、という漠然としたイメージしか抱いていませんでした。しかし、裁判官の方のリアルな考えに触れて、法曹という仕事を以前より具体的に意識できるようになりました。

このイベントに参加して、ロースクールの長所、そして魅力を沢山知りました。また、法曹の方とお話できて、法曹という仕事へのあこがれを感じました。とても貴重な体験をしました。

<感想2 大阪市立大学法学部2年生>

私は、法科大学院への進学も視野に司法予備試験対策の勉強をしています。だから大学の講義で配られた「ロースクールへ行こう!! 2019」のチラシをみたとき、法科大学院について詳しく知ることができる、また自分のモチベーションを上げるためにも良い機会だと考え、今回参加しようと思いました。

「ロースクールへ行こう!! 2019」は3部構成になっており、

第1部「法科大学院の魅力とは」では、法科大学院を経て司法試験に合格された弁護士の方による、法科大学院についての詳しい説明を受けました。実際に通われていたからこそいえる、法科大学院の魅力や苦労話を拝聴しました。司法予備試験に注目が集まりがちな今日ですが、なるほど法科大学院には法科大学院にしかない良さがあるのだと感じました。

第2部「法科大学院出身法曹との懇談会」では、小グループに分かれて裁判官、検事、弁護士の方々から30分×4ターンという形で談話をさせていただきました。それぞれの方の司法試験に合格されるまでの経緯や司法修習生時代のお話、現在のお仕事の内容についてだけでなく、個別の勉強方法についての相談や疑問点、不安にも丁寧に答えてくださり、あっという間の2時間でした。特に検事・裁判官の方とお話したのは初めてで、自分の勝手なイメージとかなり違い驚きましたが、新たな発見もたくさんあり、とても貴重な体験でした。

第3部「法律事務所等見学エクスカージョン」では、実際に法律事務所に訪問させていただき、普段私たち学生は入ることのないオフィスも見学させていただきました。事務所を見学した私の率直な感想は「かっこいい!」です。本当に陳腐な感想ではありますが、あこがれの法律事務所を生でみて、やはり自分も弁護士になってこんなところで働きたいという思いが強くなりました。

全体を通して、とても中身の凝縮された説明会で、長丁場かと思いきやお手洗いに行くのも惜しいくらい充実した時間でした。実際に法曹実務家として働いている方のお話を直に聞いて、漠然とした不安は具体的な改善点に、勉強へのモチベーションも上がりました。意外にも高校生の方がたくさんいらっしやっただけには驚きましたが、自分のように法曹志望の方はもちろん、まだ具体的に将来の方向性を決めていない方にも是非参加してみたいと思います。

<感想3 関西大学第一高等学校生>

私がこのイベントに参加したのは、大学のオープンキャンパスでもらったチラシがきっかけでした。裁判官にあこがれている私にとって、現役の裁判官や検事、弁護士の方々と直接お話できるこの機会はとても魅力的でした。そこで昨年に引き続き、弁護士を志している友人とともに参加しました。

第1部の講演「法科大学院の魅力とは」では、ロースクールに通う主なメリットについて学びました。実際にロースクールで学んだからこそわかった話は興味深く、楽しんで聞くことができました。

第2部は待ちに待っていた法科大学院出身法曹との懇談会でした。2時間を30分ずつ区切った4回の間好きなテーブルを回って話を聞くという形でした。私たちは裁判官、法テラスの女性、弁護士、今年司法試験に合格した方のテーブルに行きました。

その中でも特に法テラスのテーブルでの話が印象に残っています。法テラスについては授業で習った程度の知識しかなかった私にとって、実際の活動内容の話はとても新鮮でした。「仕事をしていて、自分たちにしか救えない人に出会ったときにやりがいを感じる」と話していたことが記憶に残っています。ほかの事務所で難しいと断られたり、そもそも弁護士の過疎地域に赴いているからこそそのやりがいなのだろうなと思いました。友人は女性問題に関心があり将来法テラスで働くことが夢なので、今回直接話を聞いたことをとても喜んでいました。

今回は前回に比べてお話を聞くことができる法曹の方の人数が少なく、用意してある椅子の数に対して話を聞きたい人が多いテーブルや、その影響で逆に話を聞く人がほとんどいないテーブルがあったことが気になりました。今年司法試験に合格した方と話せるテーブルが特に人が多く、奨学金について詳しく話を聞きたかったのですがかなわなくて残念でした。

第3部の法律事務所見学では、北浜にある弁護士事務所におじゃましました。普段どのようなところで仕事しているのかをみせていただけたのは良い経験でしたが、もっと詳しいお話を聞けると思っていたことが正直なところでした。帰りをご一緒した社会の方がとても残念そうにしていたのをよく覚えています。

前回と今回を通して、当たり前ですが大学生に向けたイベントだなと感じました。私のような高校生にとっては、大学院なんてまだまだ先の話であまり想像ができません。ですが、こうやってあこがれている職についている方たちとお話ができるのは刺激的で、「法曹なんてむつかしいし、自分にはなれるわけがない」とあきらめてかけている気持ちを吹き飛ばしてくれます。

自分が将来、ロースクールに通うことになるか、また通えるだけのお金があるのかわかりません。けれど、夢に向けての貴重な体験ができるこのイベントには来年も参加したいと思っています。